

第4節 結 論

第1項 都市部における一人っ子の精神健康度と心理社会的要因に関する

調査検討

都市部における一人っ子群は非一人っ子群よりも精神健康度の顕著な低さが見られた。兄弟姉妹の存在が精神健康度とその心理社会的要因に良好な影響をもたらすことが示された。性別による精神健康度への影響はないことが示された。

分散分析により、情緒的支援認知度による精神健康度と心理社会的要因の差異があることが明らかにされた。共分散構造分析により、情緒的支援ネットワーク認知の少なさが、ネガティブな心理社会的環境をもたらして、精神健康度の低下に与える影響の因果関係が示された。情緒的支援ネットワークの認知は、精神健康度とその心理社会的要因との関係において、重要な役割を果たしていることが明らかになった。その中でも、特に家族からの情緒的支援認知は、不安傾向の特性を低下させ、ストレスを軽減し、精神健康度を良好に保つ機能を持つことが確認された。

第2項 都市部と農村部における一人っ子と非一人っ子の精神健康度に関する

比較検討

都市部と農村部における一人っ子群と非一人っ子群との比較では、都市部の一人っ子群は、いずれの群よりも精神健康度の低さが示された。農村部の調査結果において、一人っ子群と非一人っ子群の間に精神健康度の有意な差は認められなかった。また、農村部の一人っ子群と非一人っ子群の間に家族からの情緒的支援認知以外、他の心理社会的要因の有意な差は認められなかった。都市部と農村部における一人っ子群の精神健康度の地域差が見出された。精神健康度の低下には、個人の心理社会的要因が関与するのみならず、環境要因が関与することが明らかにされた。なお、農村部対象者は都市部対象者と同様に、性別による精神健康度への影響はほとんどないことが示された。

農村部対象者は都市部対象者と同様に、分散分析により、特に家族からの情緒的支

援認知の度合いによって、自己価値感、特性不安、対人依存型行動特性、ストレス源認知、神経症傾向や抑うつ傾向に及ぼす影響が有意に変化することが示された。また、都市部対象者と同様に、共分散構造分析により、情緒的支援ネットワーク認知の少なさが、ネガティブな心理社会的環境をもたらして、精神健康度の低下に与える影響の因果関係が示された。

また、共分散構造分析により、調査対象者全体(都市部・農村部)の精神健康度に及ぼす心理社会的要因の影響に関するという因果関係を説明する良好な適合度の因果モデルが得られた。精神健康度の低下に与えている要因は、単に「ストレス源の認知」の度合いだけでなく、「ストレス源の認知」に直接強い影響「不安傾向の特性」があることが示された。また、「不安傾向の特性」は、「情緒的支援ネットワークの認知」によっても変化することが示された。本論文の仮説因果モデルが実証的に検証された。情緒的支援ネットワーク認知の少なさが、精神健康度とその心理社会的要因に与える悪影響のメカニズムが明らかにされたと考えられる。

つまり、情緒的支援認知とそのネットワークの認知は、精神健康度とその心理社会的要因との関係において、重要な役割を果たしていることが改めて確認された。調査対象者のメンタルヘルス向上のためには、周囲からの情緒的支援認知とそのネットワークの認知を重視すべきことが明らかになったといえよう。

第3項 都市部における一人っ子の精神健康度と心理社会的要因に関する

2000年調査と2002年調査の比較検討

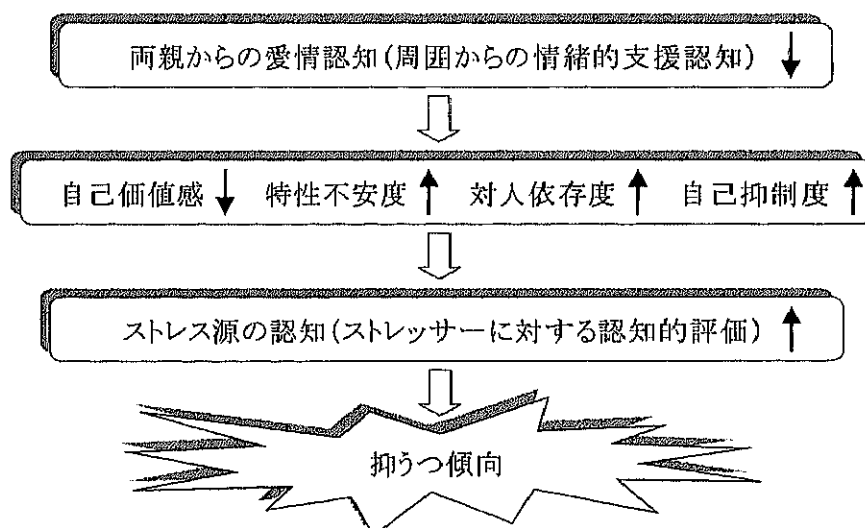
2002年調査結果は、2000年調査結果に比べ、抑うつ傾向とその出現率に有意な変化は認められなかった。抑うつ傾向に関連する心理社会的要因として、特性不安が高い、対人依存型行動特性や自己抑制型行動特性が強い、ストレス源認知が多い、自己価値感が低い、父親母親からの愛情認知(情緒的支援認知)が少ないという特徴が明らかになった。都市部における一人っ子のメンタルヘルス支援が必要であることが示された。また、2002年の調査結果は、2000年の調査結果と同様に、性別による精神健康度への影響が

ほとんどないことが示された。

共分散構造分析により、両親からの愛情認知がメンタルヘルスに与える影響の良好な適合度の因果モデルが得られた。これにより、「両親からの愛情認知」の少なさが、低い自己価値感、高い特性不安、対人依存型行動特性や自己抑制型行動特性といった「ストレス行動特性」を助長し、その結果、「ストレス源の認知」を強めるため、ストレス反応としての抑うつ症状を引き起こすことが示された。両親からの愛情認知の少なさが、メンタルヘルスに与える悪影響のメカニズムが明らかにされたと考えられる(図 7-1)。両親からの愛情認知は、メンタルヘルスにおいて如何に重要な役割を果たしていることが示された。

また、都市部における一人っ子のメンタルヘルス支援介入の際して、両親に対する愛情認知の能力や自己価値感を高め、特性不安や対人依存型行動特性や自己抑制型行動特性を弱め、ストレス源認知などの改善が必要であることが明らかになった。

図7-1 中国都市部における一人っ子の両親からの愛情認知の少なさがメンタルヘルスに与える悪影響のメカニズム



第4項 SAT カウンセリング法による都市部の一人っ子のメンタルヘルス支援

介入の効果に関する検討

介入研究では、心の悩みを抱えている「心の風邪」と言われるような軽度または中度の抑うつ症状(抑うつ気分)を持つような生徒に対し、SAT カウンセリング法によるメンタルヘルス支援介入を試みた。一回の介入によって、介入直後の効果とその後半年を経過しても、良好に持続する効果が得られた。介入の効果により、両親からの愛情認知や自己価値感が上昇し、抑うつ傾向度、特性不安度、対人依存度、自己抑制度、ストレス源認知度が低下し、メンタルヘルスの向上が見られた。このことから、SAT カウンセリング法は、中国都市部における一人っ子のメンタルヘルス支援法として、有効な支援法の一つであることが明らかにされた。また、都市部における一人っ子のメンタルヘルス悪化を予防的に介入することが必要であることが明らかになった。したがって、都市部における一人っ子青少年のメンタルヘルス悪化の予防モデル(予防策)を提案できると考えている(図 7-2)。

図7-2 中国都市部における一人っ子のメンタルヘルス悪化の予防モデル

